

振興環境委員会（振興部関係）

10月4日



国際展示場工事請負契約の変更に反対 県の調査に甘さ

第121号議案、工事請負契約の変更について、しもおく議員が反対意見を述べました。

今回のこの議案は、前回6月議会で議案が出された国際展示場のホールAの天井高14mから20mに変更するとそれに伴う工事請負契約の変更ということでもあります。

私は、前回問題点を指摘し質問しました。それについて何の反省もなく、引き続き進められていってしまっています。以前も申し上げましたように、展示会を主眼とする展示場として、14mが適切であると判断した。と県が行っていたものが突然変更されたということで、調査の甘さがあったと思います。また、今回ほどではないにしても、これからもこういった変更がされる可能性があり、どんどん予算が膨れ上がっていくことも懸念されます。

そして、今の計画で需要が足りると考えていたわけですから、これを変えることによって、新たな需要を生み出していくと考えていると思います。しかし、新たな需要が生まれ、儲かるならば費用をかけてもいいという展示場でいいのかという問題もあります。

こういった問題も含め、県民の負担が増えるばかりの国際展示場は直ちに白紙も含め見直すことを求めて、意見とさせていただきます。

スポーツ振興 国際平和と友好

のアジア競技大会を

一般質問

真の観光振興は 地元の良さを生かしてこそ

しもおく議員は「スポーツ振興に大いに寄与し、国際平和と友好に貢献する大会になるよう努めるべき」と、アジア競技大会の真意を明確にし、「開催都市契約の締結期限延長」について質問しました。

協議条項について、県と名古屋市はOCAに、何を求め、どの点で合意に至らなかったのかを県民に明らかにするべき」と求めました。新聞報道が先行されており、県からは何も説明がありません。これでは県民に情報が公開されているとは言えません。情報は原則公開とすべきです。

次に、競技会場の分散が検討されていることについて「開催誘致の取り組みが拙速」と指摘し、その後の進捗状況や、県民からの意見を募ること、選手村跡地利用については、「ヒアリング調査を行っているというが、県民に対するアンケート調査はなぜ行われていないのか」と質問。県は「方法や機会について名古屋市と相談」と答えました。

最後にしもおく議員は、県民への情報公開と県民とともに計画を練り上げることを重ねて求めました。

しもおく議員は「カジノを含む統合型リゾート施設の整備」について県の認識を質しました。

県が発足させた「国際観光都市としての機能整備に関する研究会」の構成メンバー、開催回数、検討内容の報告方法について質問しました。県は「様々な分野の専門の方々」「これまでに2回開催した。今後は未定」「概要をHPで発表している。議事録は作成しない」と回答しましたが、会の中身は県民には明らかにされません。

ギャンブル依存症対策については「国で必要な策がとられている」と、県としての対策は全く考えられていないことが明らかとなりました。

しもおく議員はわが党の国会議員団とともに、カジノについて常滑市へ調査に行き、住民の方と懇談をした際に聞いたギャンブル依存症の悲惨さ、地域産業の衰退をあげ「カジノ構想は取りやめるべき。本来の地域資源、観光資源を生かす道こそ、本来の地域経済の活性化。そこに知恵と力を集中すべき」と求めました。

